

参考資料 2 臨時的対応の事例

1 全施設共通

【対応例】

事例 1	
被害設備等	保安距離を短縮するための塀
被害設備の状況	津波により全面倒壊
想定する周辺状況	津波により塀と隣接する建物は流失し、更地となっている。
想定状況の概略図	<p>倒壊した塀</p> <p>残存する建物</p> <p>流失した隣接建物</p> <p>緊急的に取扱いを要する危険物施設</p> <p>0m 以上 = 保安距離</p>
応急措置	危険物施設と倒壊した塀側に位置する建物間の距離が保安距離と同等以上確保できる場合には、塀の復旧措置なしで取扱い可能とする。
応急措置の期限	<p>【復旧に伴う期限】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塀復旧に係る資材の手配もしくは、専門業者の手配が可能となった段階で速やかに復旧措置をとる <p>【周辺状況に伴う期限】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接建物跡地で復旧活動（仮設建築物の建設等）が開始された場合には危険物の取扱いをやめる、もしくは速やかに不燃材による応急措置をとる

事例 2	
被害設備等	非常用発電機の燃料を貯蔵する地下貯蔵タンク
被害設備の状況	ポンプの破損、配管の破損による燃料供給不能
想定する周辺状況	地下貯蔵タンクの燃料は使用可能であるが、非常用発電機のサービスタンクへ至る部分のポンプまたは配管の破損により発電機が稼働できない。
想定状況の概略図	—
応急措置	重油・軽油等第 1 石油類以外の燃料の場合、地下貯蔵タンクからドラム容器やポリタンク等へ抜き取ってサービスタンクへ補給する。 抜き取りに使用する手動ポンプ等をあらかじめ用意する必要がある。
応急措置の期限	<p>【復旧に伴う期限】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商用電源が復旧

2 給油取扱所

【対応例】

事例 1	
被害設備等	上部スラブ・地盤面
被害設備の状況	地震、液状化等により地盤面に水が浸透する亀裂が 固定給油設備等の近傍 で生じている
想定する周辺状況	周辺状況は問わない
臨時的対応の視点	地盤への浸透防止
臨時的対応	<p>地盤面に油が浸透しないよう以下のような措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モルタル等による補修 ・亀裂付近に流出に備え吸着マット等を固定給油設備近傍に準備する ・土のうにより亀裂部分に流入しないようにする

事例 2	
被害設備等	上部スラブ・地盤面
被害設備の状況	地震、液状化等により地盤面に水が浸透する亀裂が 固定給油設備等の遠方 で生じている
想定する周辺状況	周辺状況は問わない
臨時的対応の視点	地盤への浸透防止
臨時的対応	<p>地盤面に油が流出した場合においても、亀裂に油が到達する可能性が極めて低い場合には、そのまま使用可能とする。</p>

事例 3	
被害設備等	専用タンク
被害設備の状況	地震、液状化等によりタンク本体の損傷により在庫量が減少している
想定する周辺状況	周辺状況は問わない
臨時的対応の視点	出火防止
臨時的対応	<p>流出が疑われるが、給油に支障がなければ給油可能とする。</p> <p>ただし、在庫量に著しい減少があり、可燃性蒸気の多量に発生するおそれのある場合を除く。</p> <p>荷卸しは不可。</p>

事例 4	
被害設備等	通気管
被害設備の状況	地震、津波等により通気管が折損している
想定する周辺状況	地震・津波等により損壊しているが、流失はしていない状況
臨時的対応の視点	出火防止
臨時的対応	敷地境界から 1.5m 以上の距離が確保できない場合には取り扱い不可とする

事例 5	
被害設備等	建築物等
被害設備の状況	建物等の損壊により可燃性蒸気が建築物内に流入するおそれがある
想定する周辺状況	周辺状況は問わない
臨時的対応の視点	出火防止
臨時的対応	建築物等内部での火気の使用及び、建築物床面 60cm 以下の電気設備の使用を禁止したうえで、取り扱い可能

事例 6	
被害設備等	建築物等
被害設備の状況	地震等よりキャンピー幕板、電灯等が破損している
想定する周辺状況	周辺状況は問わない
臨時的対応の視点	二次災害（人身事故）防止
臨時的対応	撤去可能のものは撤去する。幕板等の落下危険がある場所に立入禁止措置を実施する。立入禁止区域内の固定給油設備の使用は禁止する

事例 7	
被害設備等	防火塀
被害設備の状況	地震・津波等により全面倒壊
想定する周辺状況	津波により防火塀と隣接する建物は流失し、更地となっている。
想定状況の概略図	<p>The diagram illustrates the scenario for Case 7. It shows a cross-section of a site. On the left, a solid rectangular box is labeled '残存する建物' (Remaining building). To its right is a dashed rectangular box labeled '流失した隣接建物' (Lost adjacent building). Further right is a vertical dashed line representing the '倒壊した防火塀' (Collapsed fire wall). To the right of the fire wall is a large rectangular area labeled '給油取扱所敷地' (Fuel handling site), which contains a smaller solid rectangular box labeled '給油空地' (Fuel storage area). A bracket below the dashed line and the fire wall indicates a distance of '4m 以上' (4m or more).</p>
臨時的対応の視点	延焼防止
臨時的対応	<p>給油空地と倒壊した防火塀側に位置する建物間の距離が、危険物を取り扱う場合の保有空地と同等以上確保できる場合には、防火塀の復旧措置なしで取扱い可能とする。</p> <p>ただし、隣接建物跡地で復旧活動（仮設建築物の建設等）が開始された場合には危険物の取扱いをやめる、もしくは速やかに不燃材による応急措置をとる</p>

事例 8	
被害設備等	防火塀
被害設備の状況	地震・津波等により一部損傷
想定する周辺状況	地震・津波等により損壊しているが、流失はしていない状況
臨時的対応の視点	延焼防止
臨時的対応	事例 7 に準ずるが、給油空地から 4m 以内の防火塀の損傷については不燃シート等による応急措置を実施したうえで取り扱い可能

事例 9	
被害設備等	排水溝・油分離装置
被害設備の状況	地震、液状化等により油分離装置系統（排水溝含む。）に水が浸透する亀裂が生じている。
想定する周辺状況	周辺状況は問わない
臨時的対応の視点	地盤への浸透防止
臨時的対応	<ul style="list-style-type: none"> ・土のう等により漏れた油が亀裂部分に流れないようにする。 ・亀裂が生じている箇所に、吸着マット等を準備し、漏れた場合には直ちに処理する。

事例 10	
被害設備等	消火器
被害設備の状況	津波で流失している、地震で破損している
想定する周辺状況	周辺状況は問わない
臨時的対応の視点	出火防止
臨時的対応	<p>給油取扱所の必要本数が確保できない場合には、以下の措置等を行い、取り扱い可能とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 車両用消火器を複数用意する（消火用） 2 土のうを準備する（災害局限化用）

※ 本例では、複数箇所に被害が生じる場面については想定していないことから、複数箇所に被害が生じた場合の想定も考慮しておくことが望ましい。